

Shiripaの星

北星学園余市高等学校同窓会誌



卒業から50年経った今

成田 昭彦（4期）



昭和46年に第4期生として卒業してから、早いもので50年が過ぎました。

高校卒業と同時に古平町役場に就職しました。当時役場職員の給料は安く、中学を出て漁師をやっている同級生に「お前の給料なんて俺の小遣いだべや」と言わせるほど、古平でも魚が獲れて景気のいい時代でした。

そういつた中で公務員生活を送れたのは、高校時代の仲間たちの存在が大きかったと思っております。50年の間には色々ありました。楽しかったこと、悲しかったことたくさんありますが、中でも一番辛かったことは、59歳の年に親友を失ったことで、今でも毎月命日には墓参を続けています。

平成20年に教育長になり、同窓会会長である馬場赤井川村教育長（現赤井川村村長）と出会いました。今考えてみると、この頃から後志の教育が停滞してきたような気がします（笑）。

教育長時代も北後志の教育長の仲間意識が強く、他のブロックの教育長からもうらやましながら存在でした。これも北星

余市で学んだ「仲間・友情・団結」魂かなと思っております。

教育長を9年6ヶ月務め、平成30年に65歳で退職し、3年間悠々自適な生活を送っていました。が、どういうわけか町民有志から町長選挙に出ろという声が出て出馬せざるを得ない状況に陥り、昨年5月に古平町長に就任しました。現在8ヶ月が過ぎましたが、68歳での現場復帰は体力的にきつく、昼食時に昼寝をしなければ午後からの執務に支障をきたすような、そんな毎日を送っております。

地域金融機関人として

初心を忘れずに…

水野 浩志（15期）



北星余市を卒業して40年、大学卒業後、余市町に本店がある北海信用金庫に勤務し、後志の町村や札幌、小樽地区に対し金融という角度から、地域の皆様と寄り添い、支えるお手伝いをさせていただく仕事に携わってきました。



左から吉田、村田、井内、水野 -3B



吉田敏晴



村田光志



水野 浩志



井内省司

4年前の2018年1月に札幌、北海、小樽の3金庫が合併、北海道信用金庫と名称が変わり本店も札幌市に移りましたが、2年前の1月頃から新型コロナウイルスが猛威をふるいはじめ、地域経済はもとより全世界の経済が停滞するほどの大事件となりました。

札幌市内の営業店を任されていた当時は、スタッフと支店のお取引先企業のおぼ全社を訪問し、状況を聞き取りするととも

にコロナ融資の対応に明け暮れておりました。

昨年はコロナ禍の中、8月には入院し見舞いにも行けない状況下で死に目にも会えないまま母が他界し、自分自身も腰椎脊柱管狭窄で入院し、手術をする羽目になるなど、あまり良い年ではありませんでした。そんな中、後志事業本部へ異動し、小樽、後志地区営業店をサポートする部署へ移りました。

新型コロナウイルス第六波が囁かれる中、地域経済の回復にはまだまだ時間がかかると思いますが、お客様、営業店の目線でのサポートを目指していきたいと考えております。

定年まであと1年半、今まで地域金融機関の人間として経験してきたことを若い職員に伝えていくこと、何よりも若かりし頃の青雲の志を忘れずに、この仕事を最後までやり遂げたい気持ちで今を生きております。

結びとなりますが、北星余市で過ごした3年間、大切な仲間、そしていつも寄り添ってくれる妻と出会えたこと……とても感謝しております。



北星余市高よ永遠なれ

井上 強嗣(51期)



平成30年3月卒業の井上強嗣です。現在、札幌の音楽事務所に所属して民謡三味線のプロとして北海道各地での演奏活動を実施するとともに学校教育及活動を実施しています。

私は苦小牧の高校1年で挫折し自暴自棄になっていました。そんな時、北星余市高が入学者数の低迷で廃校の危機を知りました。直観的にここでやり直せると思いました。廃校の危機も少しは救えるかなとも思いました。北星余市高に転入し、再び高校1年からやり直しました。余市高では学校生活も放課後の時間も楽しく充実した生活でした。学校生活ではみんながそれぞれの個性を持っており、学校はその個性を尊重して暖かく見守って頂きました。余市高の外では普通じゃないのが余市高の中では普通という面白さがありました。ヨットのクラブ活動も楽しい時間でした。放課後は、三味線と民謡の演奏活動に奔走しました。三味線

と民謡は幼少の頃から続けており、各地で演奏活動を実施しました。多くの方々から応援や激励を頂き、これまで自分の人生や生き方に悩んでいた自分が、自分に素直に自分の思いを表現し、このような自分でいいんだということを確認していききました。また、たくさんの方に北星余市高や余市の事をPRしました。高校は通算4年で卒業しましたが、この間、高校をやめようと思ったり挫折したり色々な事がありました。いろいろな方々の支えや激励のありがたさを痛感しました。なによりも自分自身に自信がついたことが大きかったです。

夢を持ち夢に向かって頑張っていくということは大切なことだと思えます。北星余市高の皆様も夢をもってチャレンジしてもらいたいと思います。北星余市高のOBは全国どこでも繋がってますし応援します。現在、コロナ禍で大変な時期ですが、一緒に負けず挫けず頑張っていきましょう。

北星余市高の在校生と関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。北星余市高よ永遠なれ！



退職にあたって

宗教主任 塩見耕一



私が最初に北星余市に赴任した時の3年生が31期生でした。そして、私が退職時の一年

生が58期生でした。25年間にわたってこの学校で過ごす中で多くの若者たちと出会い、学び合い、共に生活し、そして、旅立ちを見送ってきました。多くの卒業生がこの学校での生活を貴重な体験とし、人生の大きなポイントとしてくれていると思います。実は私にとっても人生の中で一番多くの時間を過ごし、多くの経験をした場所がこの学校でした。ここで出会った若者たちはまだ発展途上の段階とはいえ人間としてぐんぐん成長していく姿を見せてくれました。不安を抱えながらも真剣に生きようとしている若者、安心して信頼できる仲間にもまれて心からの笑顔を見せてくれる若者、小手先のテクニクではなく人生の本質を身に付けようと頑張っている若者、彼らは少年からたくましい青年へと成長していききました。こうした若者たちが私に大きなエネルギーを与えてくれました。若者たちと一緒に生き、共に成長する場所。北星余市とはこんな学校なのではないでしょうか。この学校で生活できた日々を感謝します。

近況報告

教員 鈴木恭子



北星余市にも日本語以外の言語で生活してきた生徒が来ることもある。彼らは学校や下宿

で生活に順応していくが、言葉以上にスポーツや音楽を通じてあつという間に「仲間」ができる若者たち。この力、すばらしい。

近年、日本語指導を必要とする学生・児童が道内でも増えているが、進学はとも困難だという。そんな若者にとつて、北星余市が彼らの居場所のひとつとなるかもしれない。数年後には高校で日本語の授業が正式に単位化されそうだと聞く。自分も何か役に立てるかもしれない。そう思つて、週に一度、小樽の日本語教室に通い始めた。



現在私は学習支援者の一人としてこの教室に参加しながら、日本語指導の勉強をやり直し中だ。言葉の問題で行き先が見つからず悩んでいる若者たちに、どうか居場所が見つかりますように。

感染防止に配慮しながら学校生活を保障することの難しさを痛感しました。当時、気がかりだったのは未だ入学式を迎えられていない新入生へのケアでしたが、在校生たちが、まだ見ぬ新入生たちへ向けて励ましのメッセージを送ってくれました。我々がようやくオンライン授業を始められるようになった頃には、生徒たちは既にZoomの使い方を心得ており、授業終了後は、いつも数人の生徒たちがミーティングルームに残って、まるで放課後の教室のようにお喋りをしていました。彼らの適応力には驚かされますが、それは「つながりたい」という思いそのものなのでしょう。教師は正しい授業時間や学力の保証にばかり意識が向きますが、文化を創造したり、つながりから絆が生まれたり、喜びを分かち合ったりということは、一人では成し得ません。その尊さを改めて生徒たちから教えられました。

つながりに支えられて

教頭 妹尾克利



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年、本校も4月に入学式を迎えられないとい

うかつてない経験をしました。入寮生の入らない寮・下宿の経営も深刻な状況になりました。そこで、学校独自の奨学金を設立し、寄付を募ったところ、同窓生の方々からも多くの寄付をいただきました。卒業後もなお、本校のことを応援し続けてくださる同窓生の皆様への感謝の気持ちは筆舌に尽くせません。

学校は変わりにくい組織と言われますが、この2年間で、否応なく前例主義の見直しを迫られました。オンライン授業、PCR検査、ワクチン接種、アルコール消毒等、様々な変化の中で、





同窓会の「奨学金制度」について

母校の教育活動を支援するという同窓会の目的実現のため、同窓会では奨学金制度（給与）を設けています。

会員のお子様が北星余市へ入学した際、希望者には在学中の授業料等を補填しています（月／5,000円、2人目が同時に在学中は5,000円×人数）。

2021年度は、1年生2名、3年生2名のそれぞれ姉妹（1年と3年に在学）に利用していただきました。

なお、本奨学金は、同窓会で運営する自動販売機（校舎玄関に設置）の収益金の一部により運営されています。

計 報

2021年9月14日 福谷和年さん(15期)
2022年2月14日 下山栄二さん(8期)

お悔み申し上げます。

北星余市のホームページで 本誌「Shiripaの星」を 公開しています



ここをクリック

※バックナンバーもご覧いただけます。

北星余市



〈編集後記〉

今回の「シリパの星」発行にあたり、原稿を依頼した同級生の水野くん（15期）からクラスメートの情報をいただき、その中に、定山溪温泉の有名ホテルで『総料理長』を務めている人がいることが判りました。お料理が美味しいことで有名な老舗の温泉ホテルです。

私の記憶は、1年生の時同じクラスだったこと、そばかす顔でやんちゃ気味だけど素朴で優しい人だったこと、入学時小さかったのに高校3年

間で背がすごく伸びたこと（学ランの袖がツンツルテンになっていた）でしたので、現在の立派な白衣姿を想像し、とても誇らしく思いました。

いつか、クラスメートの「ちえ」（美容室経営）を誘って、彼の美味しいお料理と温泉を堪能しに出かけたいと思います。

大おばさんに成長（笑）した私たちのこと、光志憶えてくれているかなあ…（え）

Shiripaの星

Vol.19
2022年3月発行

【発行】北星学園余市高等学校同窓会「シリパの星」編集委員会

〒046-0003 余市郡余市町黒川町 19 丁目 2 番地 1

TEL (0135) 23-2165 FAX (0135) 22-6097 URL <http://www.hokusei-y-h.ed.jp/>

顧問 塚原 治
編集長 松村 悦子(15期)
副編集長 松浦 一法(12期)
編集委員 安藤 栄子(1期)
本間美智子(5期)
馬場 希(12期)
平野満寿美(14期)
高崎 麻美(40期)